

3セク4社 増収へさらなる挑戦

市内の第3セクター4社がこのほど、定時株主総会を開催。昨期の事業・決算を報告し、今期の業務内容などを決定しました。その概要をお知らせします。

エフエムあやべー 76.3メガヘルツ



放送受賞！イベントなどでも活躍し累積損失を一掃

コミュニティラジオ局「FMいかる」を運営するエフエムあやべ（井関悟社長）は6月14日、定時株主総会を開催しました。

同社は、近畿コミュニティ放送賞の放送活動部門とCM部門で最優秀賞、特別番組部門で優秀賞を受賞するなど地道な取材と工夫を凝らした質の高い情報提供を継続。また、地域の魅力を伝える映像の制作、イベントの運営・司会や特設スタジオからの生放送など、市のにぎわいづくりに貢献しています。スポンサー料など放送に係る収入は昨年

並みを確保するとともに、放送外収入は前年比12.1%と好調。経常利益は346万円、純利益は259万円で6期連続黒字となり、さらに累積損失の解消も果たしました。

今期は、中継局の整備による放送エリア拡大と、受信アンテナの取り組みによりリスナー増に努めるとともに、視覚障害者のための広報紙の読み上げ、小型無人飛行機（ドローン）を使った映像の撮影なども行っています。

今後も市民に必要とされ、市民が参加できるコミュニティ放送局として地域に密着した取り組みを進めます。



地域で活躍する子どもたちも出演

水夢ーあやべ健康プラザ



▲生後6か月～2歳半を対象としたベビースイミングは、今期から月会費を値下げ。さらに利用しやすくなりました

会員の満足度を高め、健康の発信拠点となる施設づくりを

青野町のあやべ健康プラザを運営する水夢（山本雄史社長）が5月11日、定時株主総会を開催。経常利益590万円、純利益486万円を報告しました。

昨期は、新規会員獲得のため、会員紹介キャンペーンやチラシのポスティングなどに加え、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）を活用した広告活動も実施。また、会員の満足度の向上のため、全従業員が明るく親切・丁寧

な指導や接客に努めるとともに、さまざまな媒体を活用してイベントやキャンペーン情報、教室の開催状況などをお知らせし、利用しやすい仕組み作りを行いました。

今後も会員数の確保を重要課題とし、スタッフのスキルアップを図るとともに、新規会員の獲得に努めます。また、館内の心地よい環境づくりに努め、市民の健康づくりの一助となるよう取り組みを進めます。

詳しくは、同社☎(40)1788へ。



◀今期に入り更新したトレーニングマシン。スタッフが親切・丁寧に指導します

農夢ー京みず菜



現在58棟のハウスをさらに増設予定

新たにハウス13棟を増設 新規作物の栽培にも挑戦！

京みず菜の生産量で府内トップを誇る農夢（四方勝一社長）は6月18日、定時株主総会を開催しました。

昨期は、京みず菜を中心に145トを生産し、前年度より15・2割増の9908万円の売り上げを記録。販売量の伸びに比例して人件費が増加したものの、経営努力により純利益は29万円となりました。

今期はビニールハウス13棟を新設予定。生産量のさらなる拡大を図り、コストカットに努めながら品質第一の京みず菜を生産します。また、みず菜の価格が安くなる4～6月の生育旺盛期には、ハウレ



品質にこだわった京みず菜の出荷作業

ンソウに加えて新たにミニトマトや中玉トマトを試験的に導入。冬場には、毎年好評である「寒味ホウレンソウ」の露地栽培も引き続き行います。さらに、地域全体の農業活性化を目的に、ほかの農業法人と協働でキャベツの契約栽培に取り組みなど新たな試みに挑戦。今期は1億947万円の売り上げを目指します。



▲昨期から開始した量り売りバイキングビューフェでは、地元の食材をふんだんに使用した料理が楽しめます

毎月26日を「風呂の日」と位置付け（26日が休館日の場合は前日）。月替わりで「変わり湯」が楽しめます

緑土ーあやべ温泉

上林地域への追い風受け 魅力的な観光施設づくりへ

睦寄町のあやべ温泉など上林地域の観光施設を運営する緑土（永井晃社長）は5月20日、定時株主総会を開催。経常利益は998万円、純利益は940万円を報告しました。

台風や大雨災害などの影響や入浴客の減少により、厳しい経営が続いていましたが、昨期は大きな自然災害もなく、さらに京都縦貫自動車道の新線開通などが追い風に。特に宿泊客が順調に伸び、機能集中によるコスト削減などとも相まって、3期ぶりに黒字決算となりました。

今期は、さらなる安定経営に向け、経営陣も一新。業務



の効率化や市内観光施設との連携、積極的な情報発信などにより、強固な経営基盤の確立に努めます。さらに、上林一部地域が国定公園に指定されたことや森の京都博開幕、国宝・二王門の改修などの好機をとらえ、市民に愛され、また市外からも訪れてもらえる魅力的な観光施設づくりに努めます。

詳しくは、同社☎(55)0262へ。